

# 読売歌壇

## 小池 光選

貧乏にうそをいくつもつきし事許され給へ除夜の鐘聞く 高崎市 柳 武州子

【評】貧しさゆえに嘘をついた、という現実が重い。そういう嘘もあるのだ。いま年輪重ねて、その行為を詫言。どうか許して欲しい。ひとり除夜の鐘を聞きつつ。

あのころは街に野良犬など歩き人もなやらず自由であった ひたちなか市 新山 英輔

【評】野良犬というものもいつしか視界から消えていまの犬はみな所屬が決まっている。それは安心だが、どこかしらさびしい。人間のあり方もまたしかり。

時々はでんぐり返る森光子思い浮かべて春に突撃 伊賀市 福沢 義男

【評】でんぐり返りの森光子さんいなくなつて久しい。あの気力と体力で春に突撃しよう。結句が強くておもしろい。

冬枯れの景色の続く高速をみゆきの「時代」聞きつつ走る 鹿児島市 白沢 友実

五十年ともに生きて大木にいま満開に枇杷の花咲く 下松市 田中 昌子

庭先にりんごをパン置き鳥来るをじっと待ちたる胃をこりし父 東京都 浜田 綾子

十年後には差が出るというクリムの宣伝に乗る八十二歳 横浜市 山本喜太郎

わが母の植えし水仙この年も青き芽を出しのびはじめたり 仙台市 三角 清造

今世紀四分の一の過ぎしこと正月になり気付き驚く 上尾市 清水 昇一

三が日すればカップラーメンをなぜか無性に食べたくなりぬ 足利市 熊田 敏夫

## 栗木 京子選

振り袖は母のお下がりとて孫の二十歳の笑みに残る幼き 近江八幡市 安田 悦子

【評】成人を祝う晴れの日に、孫は母の振り袖を着ることを選んだ。「お下がり」がほのぼのとしている。孫の表情に幼さを感じたところに祖母ならではの愛情がうかがえる。

道の端に椿ひとつの朽ちており午後をすすめば午後もしずけさ 埼玉県 鈴木えみ子

【評】幾つもの椿でなく一つだけ椿が落ちて朽ちている様子が心に残る。道を歩いてゆくと、その椿の花から静寂が流れてくるような気がする。下句の対句表現が味わい深い。

どんと焼義母丹精の餅の粥をどろり飲み干す息災願いて 周南市 野村 貞江

【評】どんと焼は左義長とも言ふ。正月に飾った餅を粥にして飲んでいるところがいかにもおもしろい。「どろり」が効いている。

裏木戸のくぼみにひそむギリギリ枯葉色なる命の不思議 龍ヶ崎市 日野林佐智子

米国の友に火事見舞いのメール送る我が祖も関東大震災で家と商売を失った 東京都 青山 繁

水面から飛び立つ鳥が脱ぎ捨てたこの世の影は時の抜け殻 東京都 稲山 博司

通学の子供と交わす挨拶が老いた体にアイロンかける 山形市 柏屋 敏秋

老後でも成果求めるクセ抜けず歩数計測・睡眠採点 東京都 岩本 朗

鴨たちが楽しく浮くを見て帰る鏡開きのぜんざい食べぬ 岐阜市 後藤 進

放置畑に麦に似し草生え在ればなつかしくなり踏んでみにけり 所沢市 鈴木 照興

## 俵 万智選

一本の吊り橋を指で切り落とす連絡先を削除し終えて 横浜市 友常 甘酢

【評】連絡方法があるうちは、関係は途絶えていない。パスサリ切る感じを捉えた上の句の比喩が、秀逸だ。それを指一本でできてしまふのが現代社会だし、たぶん渡つても危うい関係だったのだらうとも思わせられる。

偽造したパスポートでも持つように微熱の残る身体で歩く 大和郡山市 本田 岳

【評】偽造パスポートとは面白い比喩だ。自分のふりをしているが、どこか本来の自分とは違ふという感じが伝わってくる。

早春の銀座通りですれ違ふタトゥーの蝶の棲む腕白し 川口市 渡辺しゅういち

【評】タトゥーの人が歩くことで蝶に動きが生まれ、擬人化に説得力がある。今にも早春の銀座に飛び立ちそう。

舞音のような迷いに決心は固まることのない茶碗蒸し 富士見市 松本 尚樹

アラフォーの上手いかな人生にサンドイッチのレタスが出てる 入間市 大野 美波

オセロなら一気に返るいきおいだ隣の席にきみが座って 高島市 くらたか湖春

雪明りさゆらぐ厨に子らの住む千葉のキャベツをさばさは刻む 青森市 安田 溪子

言葉ならなんでも言えてしまつたら祈る顔文字ひとつだけ押す 東京都 鈴木ベルキ

若者が昭和をエモいと言つたに自分の手柄のきみがまだ私を好きでゐてくれたときにもらつた靴下を履く 燕市 田巻由美子

八王子市 土屋ひろ菜

## 黒瀬 珂瀾選

父がいて母がいてご飯をくれてわたしの家でわたしは迷子 笠岡市 藤井きょう

【評】実家で両親に世話され、衣食住に困らず、ゆえに自分の行く先が見えない。自立を願いつつも家を出られない、そんな透明な閉塞感に今、向き合っているのでしょうか。

埋み火を見つアイスを食ふ春の昔ながらの離れの火鉢 古賀市 砂山ふらり

【評】寒い冬に温かい部屋でアイスを食べるなんて実に贅沢。しかもその暖房は火鉢。うちの火鉢はもう何年も炭を入れていませんが、こちらは現役なんですね。うらやましい。

生き延びた意味をいまだに掴めず十七日が過ぎる一月 阪南市 岡本 文字

【評】阪神淡路大震災から三十年。様々な記憶や思いを込めた歌が多数届きました。互いに詠みあふことで伝わる心もあるはず。

生き延びた三十年を語るとき母のようにして床を見つめて 八王子市 吉村のぞみ

余震という言葉初めて聞いたのは大揺れの後の地域のニュース 東京都 井上 寿美

石動は寺多き町ささぎのあの辻この辻涅槃会の風 射水市 斎藤 久雄

唯月が七百年前掘りし地にわれいま立ちぬ「歎異抄」手に 笠岡市 八雲 辰

墓じまい賀状じまいの次に来る命じまいだ先へ延ばそう 鳥取県 表 いさお

あの頃が我が青春と思ひたり冬の火花は円かに開き 行田市 小河原一路

就職がようやく決まった冬の夜満月が今この道照らす 横浜市 児玉 尚輔